資料1

道内の感染状況等について（案）

【令和4年11月29日】

主な指標の状況

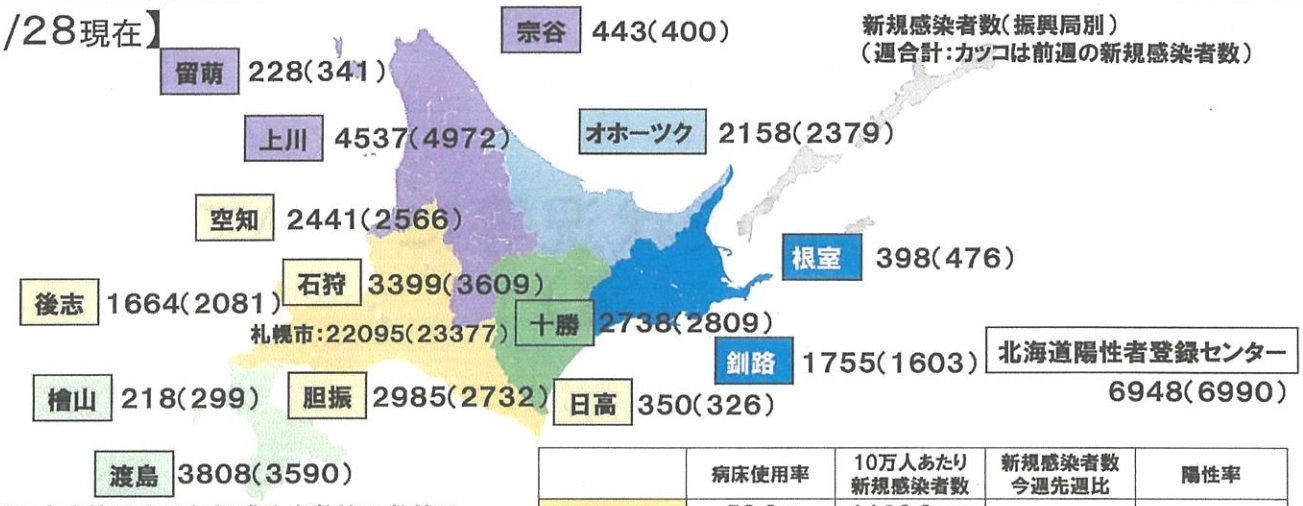
11／28	レベル	移行指標 病床使用率	移行指標 重症病床使用率	移行指標 10万人当たり新規感染者数	その他指標 新規感染者数今週先週比	その他指標 陽性率
全 道	2	55.2%（1261床）↗	13.8%（16床）↗	1083.5人/週（56165人/週）↘	0.96 ↘	68.7% ↗
札幌市	2	58.8%（430床）↗	18.4%（9床）↗	1126.9人/週（22095人/週）↘	0.95 ↘	131.5% ↗
札幌市を除く地域	2	53.5%（831床）↗	10.4%（7床）↘	1057.1人/週（34070人/週）↘	0.97 ↘	52.5% ↘
レベル２ 移行指標		20% 又は	20%	15人/週		
レベル３ 移行指標		50% 又は	50%	－		

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、1週間前との比較。

（注）・令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・全道及び札幌市を除く地域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
・検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

地域における主な指標の状況

【11/28現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	58.8%（430床）	1126.9人/週（22095人/週）	0.95	131.5%
道央圏（札幌市除く）	55.5%（276床）	810.6人/週（10839人/週）	0.96	41.2%
道北圏	61.1%（204床）	895.6人/週（5208人/週）	0.91	50.0%
道南圏	48.4%（108床）	979.3人/週（4026人/週）	1.04	34.6%
十勝圏	68.4%（117床）	825.0人/週（2738人/週）	0.97	37.3%
オホーツク圏	34.1%（46床）	801.1人/週（2158人/週）	0.91	43.7%
釧路・根室圏	41.5%（80床）	737.4人/週（2153人/週）	1.04	49.8%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。
※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別(圏域別)の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
※札幌市以外の各圏域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
※北海道陽性者登録センター分は地域別の内訳が把握できないため、陽性率の算出には含まれていない。
※検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、新規感染者数の増加傾向が続き、ほぼ全ての地域で先週比が1を上回っている。北海道は引き続き、10万人当たりの新規感染者数が1，000人を上回り、全国最多となっているが、他県においても、東北地方を中心に1，000人に近い水準となってきている。

※参考：11月28日、新規感染者数先週比　山形1.07、東京1.21、大阪1.21、福岡1.22（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、55．2%と、増減をしながら増加傾向が続き、入院患者数は11月26日には、過去最多を更新している。また、札幌市については58．8%となっている。地域においては、道北圏、十勝圏で高い水準となっている。重症病床使用率は増加しており、13．8%となっている。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、人口10万人当たりでは1083．5人となっている。国の専門家からは、北海道での増加は頭打ちの傾向もみられる、と指摘されており、11月12日以降、1，000人を超える状況が続いているが、今週先週比は11月24日以降、5日連続で1を下回って推移している。年代別では、30代以下の割合が減少し、約5割となっているほか、その他の年代の割合が増加し、60代以上が2割となっている。

総　評　②

【新レベル分類への対応について】

○ 国は新たに「オミクロン株対応の新レベル分類」とその運用の考え方を示した。道としては、レベル分類の枠組みや指標・事象については国に準拠する。レベル判断に当たっては、レベル1・2については病床使用率、レベル3・4については病床使用率・重症病床使用率の指標によることとし、事象も勘案するなど、総合的に判断することとする。
～（参考）スライド⑥⑦参照

○ 現在、全道の病床使用率は、55．2%、重症病床使用率は13．8%という水準にあることから、全道をレベル2とする。 ～（参考）スライド⑧参照

【今後の対策】

○ 現在の状況はレベル2にあるが、病床使用率は高い水準にあり、新規感染者数も全国最多が続き、感染レベルは高い状況にある。このため、道民の皆様に対し、基本的な感染防止行動の徹底やワクチン接種の速やかな検討などについて、改めて、徹底し、対策を強化いただけるよう、呼びかけを強化し、医療のひっ迫を回避し、社会経済活動をできる限り維持していくよう、取り組んでいく。

総　評　③

○ 保健医療提供体制の確保に向け、最大確保病床の更なる充実を図るため、国の通知を踏まえた病床確保料の取扱いも含め、関係団体や医療機関に働きかけを行い、病床確保の必要性などについて、一定のご理解を示していただいているところ。このため、病床確保料の見直しに関する道の対応※を早急に示すとともに、引き続き、病床確保の調整を進める。 ※従来どおりの運用を基本として対応

○ また、外来医療提供体制の強化を図るため、診療・検査医療機関の指定や診療時間の延長などについては、「外来医療体制整備計画案」に関する国との協議終了を待つことなく、必要な取組を進める。また、「北海道陽性者登録センター」の機能拡充や「北海道健康サポートセンター」の体制強化などを進める。

○ 新たな経口抗ウイルス薬（ゾコーバ）については、当初予定が前倒しされ、11月28日から供給開始となり、道内医療機関等へ向けた配送も開始されている。引き続き、新規感染者数が全国最多となっている状況なども踏まえ、必要数ができるだけ早期に確保されるよう、国と緊密に連携を図るとともに、速やかな処方開始に向け、医療機関等と調整を進める。

○オミクロン株対応ワクチンの接種については、SNSやデジタルサイネージのほか、フリーペーパーなど、多様な媒体を活用する集中的広報を通じ、幅広い層に向け、速やかな接種の検討を呼びかける。

オミクロン株対応の新レベル分類の運用について

新レベル分類

○国は、今秋以降にオミクロン株と同程度の感染力・病原性の変異株による感染拡大が生じ、保健医療の負荷が高まった場合を想定し、医療のひっ迫度に着目するこれまでのレベル分類の基本的な考え方は維持しながら、オミクロン株に対応した指標及び事象を改訂。

道の運用の考え方

○レベル分類の枠組や指標・事象については、国に準拠。

○レベル判断に当たっては、レベル1・2については病床使用率、レベル3・4については病床使用率と重症病床使用率の指標によることとし、事象も勘案するなど、総合的に判断。

地域を対象とした運用

○これまでのレベル分類においては、原則、全道域で運用を行いつつ、札幌市内における対策の重要性を踏まえ、札幌市を対象とした運用を実施。

○こうした状況を踏まえ、新レベル分類においても、これまでと同様の運用を行う。

新レベル分類における指標と事象

区分		感染小康期	感染拡大初期	医療負荷増大期	医療機能不全期
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
病床使用率等	指標	0～30% (病床使用率)	30～50% (病床使用率)	50～80% (病床使用率 重症病床使用率)	80%～ (病床使用率 重症病床使用率)
保健医療の負荷の状況	事象	・外来医療・入院医療ともに負荷は小さい	・発熱外来の患者数が急増し負荷が高まり始める ・救急外来の受診者数が増加 ・病床使用率、医療従事者の欠勤者数が上昇傾向	・発熱外来・救急外来に多くの患者が殺到、重症化リスクの高い者がすぐに受診できない状況が発生 ・救急搬送困難事案が急増 ・入院患者が増加し、また医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる	・膨大な数の感染者に発熱外来や救急外来で対応しきれなくなり、一般外来にも患者が殺到 ・救急車を要請されても対応できない状況が発生。通常医療も含めた外来医療全体がひっ迫し、機能不全の状態 ・膨大な数の感染者により入院が必要な中等症・重症の患者数の絶対数が著しく増加 ・多数の医療従事者の欠勤者発生と相まって、入院医療がひっ迫 ・入院できずに自宅療養中・施設内療養中に死亡する者が多数発生 ・通常診療を大きく制限せざるを得ない状態
社会経済活動の状況	事象	―	・職場の欠勤者が増加し、業務継続に支障を生じる事業者が出始める	・職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者が多数発生	・職場の欠勤者数が膨大になり、社会インフラの維持に支障が生じる
感染状況	事象	・感染者数は低位で推移しているか、徐々に増加	・感染者数が急速に増え始める	・医療の負荷を増大させるような数の感染者が発生	・今冬の新型コロナウイルス感染者の想定を超える膨大な数の感染者が発生

（国の分科会資料及び国通知から道が整理）

※感染拡大により保健医療への負荷が高まった場合、地域の実情に応じた判断により、対策を強化(令和4年11月18日　政府対策本部決定)。

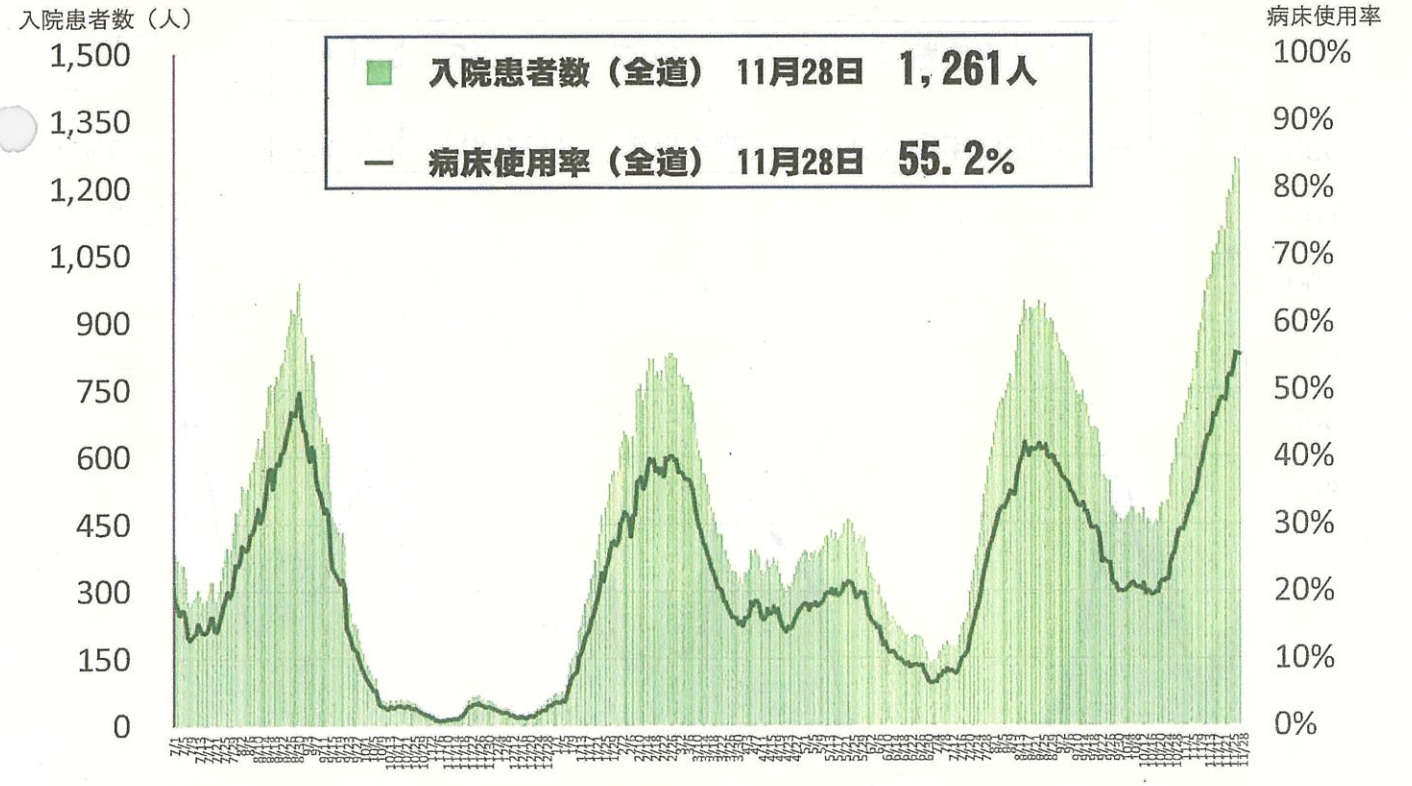
[国の示す枠組]

「レベル3　医療負荷増大期」：地域の実情に応じて、「医療ひっ迫防止対策強化宣言」を行う。
感染拡大のスピードが急激な場合など、「レベル4　医療機能不全期」になることを回避するために、地域の実情に応じて、「医療非常事態宣言」を行う。

新レベル分類における位置づけ

11／28	レベル	指標 病床使用率	指標 重症病床使用率	（参考） 10万人当たり新規感染者数	（参考） 新規感染者数今週先週比
全道	2	55.2%（1261床） ↗	13.8%（16床） ↗	1083.5人/週（56165人/週） ↘	0.96 ↘
札幌市	2	58.8%（430床） ↗	18.4%（9床） ↗	1126.9人/週（22095人/週） ↘	0.95 ↘
札幌市を除く地域	2	53.5%（831床） ↗	10.4%（7床） ↘	1057.1人/週（34070人/週） ↘	0.97 ↘

レベル1	0～30%	－	レベル1・2については病床使用率、レベル3・4については病床使用率・重症病床使用率の指標によることとし、事象も勘案するなど、総合的に判断
レベル2	30～50%	－	
レベル3	50～80%	50～80%	
レベル4	80%～	80%～	

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、1週間前との比較。

入院患者数と病床使用率（全道）